

保育所ニュース

取り組み報告やニュースを送ってください。

FAX: 03-3875-6270 e-mail: nask@irouren.or.jp

この出会い、学びを大切にして
明日からの保育に活かしていこう！

第37回保育所会議

6月27～28日 ハートピア熱海

昨年を上回る54人が参加



参加者全員で記念撮影

6月27日(土)28日(日)ハートピア熱海で第37回院内保育所会議を開き、54人が参加しました。1日目は、聖カタリナ大学の山本万喜雄先生より「人間讃歌の保育をめざして」というテーマでの講演。その後、基調報告、3つの特別報告を受けた後、3つの分散会に分かれて現場の悩みなどを出し合い、18時までびっしり詰まったスケジュールでした。

2日目は「パネルシアターとタオルで遊ぼう」と題し、松家まきこ先生から2時間実技研修を受けました。松家先生の

感動的なブラックシアターとお話を引き継ぐ形で、指名された参加者が感想を語り、中野千香子委員長が「いのちを守り、育む保育労働者として、処遇改善と戦争法案反対の声をあげていこう」と閉会挨拶を述べ終了となりました。最後に松家先生を真ん中に「にく!」「えび!」の合図で参加者全員の記念撮影。来年の再会を誓い合い散会となりました。

山本先生の講演を聞いて



「肯定的なものの見方を育むために、保育者は日々保育をしないとけない」「『子ごころ五つの世界』を大切に実践したい」「最も手のかかる子をどれだけ愛おしく感じるかにかかっていると聞いてドキッとしました」「いのちとくらしと生き方は、人間形成に繋がっているのですね。気をひきしめて保育をしたい」「子どもと向き合わずに、同じ方向を見て話をするのがこんなにも重要なって!」「言葉のもつかって本当に大きい」「保育も子育ても平和があってこそだ

と改めて思いました」など、感想が寄せられました。

時々寒いオヤジギャグもあり～のダジャレで、会場を和ませながら、まさに先生が教えてくれた「ふかく、やさしく、あたたかい」保育実践に通じるような講演内容でした。

3つの特別報告

いまの情勢を受けて3つの特別報告は大変有意義なものでした。茨城厚生連の安本さんから「土浦協同病院附属ひまわり保育園」の紹介、京都市立病院院内保育所「青いとり保育園」の福祉保育労・青いとり分会の加味根さんから「青いとり保育園の委託契約問題」、広島中央保険生協・ひまわり保育園の長谷川さんから「新制度の小規模型事業所内保育事業への申請」について、それぞれのとりくみが報告されました。

青いとり保育園を守る会では、現在、子育て交流とみんなの居場所が作られ、裁判闘争に立ちあがる準備がすすめられています。裁判支援の物販のとりくみ協力と共に京都市と京都市立病院への団体署名への協力が呼びかけられました。



特別報告 安本さん・加味根さん・長谷川さん

分散会に参加して

各分散会では、自己紹介のあと、実態調査結果や東京未来大学の西村先生の院内保育所アンケート結果などを現場の実態を出し合いました。保育対策委員である千葉健生病院・くるみ保育所の古澤さんから提起された「2015年保育合研の分科会レポート作成に向けたアンケート」に基づき、「看護師（お母さん）の働き方と保育所職員の働き方、子どもへの影響」「病児保育実施園・夜間保育実施園の悩み」「保育士の賃金・労働条件改善」などの問題を語り合いました。

参加者は「色々な園の話聞いて悩みを共有できて良かった」「子育て支援は充実してきたが、看護師さんの労働強化が保育士の労働強化につながっている。一番の犠牲者は子ども。子どもの発達・成長が心配」「委託が広がってきている。安上がりの業者に保育は任せられない」「保育士不足、保育士の低賃金にもっと怒ろう！もっとアピールしよう」などの発言が続きました。

実技研修を受けて



松家(まつか)まきこ先生

「本当に楽しかった！さっそく園に帰ってやってみます」「タオル1枚でこんなに楽しく遊べるなんて♪」「被災地の皆さんと一緒に作られたというブラックシアターに感動」「松家先生は美しく、歌も上手で魅力的な先生でした」

次々に飛び出すパネルシアターを歌いながら、身体を動かしながら楽しみ、仕掛けを聞いては「ほお〜」と感心の声をあげ、「タオルを使って遊ぼう」ではタオルでごしごし洗いっこ、丸めてポップコーン、マントに見立ててぞうさんに…とキャラクター言いながら遊びました。最後に真っ暗な会場に浮かび上がる「ブラックシアター」『翼をください』『花は咲く』は感動の涙に包まれました。



タオルでうさぎ

夕食交流会。今年も大変盛り上がりました！



メイド服の古澤さん

夕食交流会は保育対策委員の古澤さんが4チーム対抗のミニ運動会と大抽選会を開催してくれました。「ストップウォッチ回数対決」「風船割り競争」「えびせんを一番早く食べるのは…？」など多彩なゲームの勝利者には手作りメダル、大抽選会では、手作りの消しゴムはんこをあしらった手提げ袋など全員に賞品が当たりました。



6月29日保育所厚労省交渉

「院内保育所に関わる実態を把握します」

「医療介護総合支援基金の各都道府県での支援状況」

「青いとり保育園委託問題」「院内保育所の消費税課税問題」



6月29日、日本医労連は「院内保育所の充実」を求め、厚労省交渉を実施しました。交渉には日本医労連保育所対策委員、各組織の保育担当者等28人が参加、厚労省からは医政局、雇用均等・児童家庭局から5人が対応しました。

日本医労連は、2014年度から変更となった新たな財政支援制度「医療介護総合支援基金」は都道府県によってまちまちであり、国が責任をもって内容を把握し助成を行うべきだと迫りました。厚労省は「事業は各都道府県で行っており現場に近い自治体に移行した。その趣旨からして引上げは都道府県の判断に基づくが、院内保育所の役割は大

きい。看護師確保対策について各県と連携して進めていきたい」「保育運営に必要な助成金については、厚労省として基金予算の拡充に努め、その内容を把握する」と回答しました。

交渉参加者からは「基金全体の87%しか補助はできないと言われた。各県任せにせず指導せよ」「人件費単価を規定し、国として県に通達を出してほしい」「生活保護を受けている保育士もいる。保育士争奪戦の中、院内保育所の保育士は特に低賃金で病院を支えている」「国立病院機構の院内保育所も基金の対象となるが、まだ4県しかもらえていない。対象になることを徹底せよ」「国として子どもを守る姿勢で、基金の使われ方を責任をもって指導・調査せよ」「支援基金と保育新制度の補助は単位が違う。保育士は我慢の限界にきている。これからどう保育園を守っていけばいいのか」等々訴えました。

保育の質を保障するため、院内保育所で働く職員の雇用継続・労働条件維持に国は責任をもて



青いとり分会の仲間から委託先変更に伴い、「今まで病院職員の定着に貢献してきたが、21名の職員が継続雇用とならなかった」「家庭的保育が制限、管理をされ、保育の質が低下している」「アートチャイルドケアの職員がこの6月末で3人もの退職希望が出ている」など現場の状況が訴えられ「国も実態を把握し、院内保育所で働く職員の雇用・労働条件に不利益が生じないように、国が監督、指導せよ」と求めました。

また、厚労省は「教育保育施設の重大事故再発防止のガイドライン・マニュアルを検討中であり、今年度中に作成しホームページ等にデータをアップする」「院内保育所を消費税の課税対象にする件については現状を把握する」「正規・非正規の同一労働・同一賃金については、労働局の判断によるが、直接労働基準監督署に相談を」「乳児院で働く保育士への人件費補助については、担当係りに伝える」「非常勤職員の補助金申請の換算方法については、国の基準では8時間以上であれば『1』としており、実態に合わせることを望ましい」とそれぞれの問題で回答しました。

最後に、院内保育所の位置付けを重視し、基金の積み増しするとともに、厚労省として院内保育所にかかわる実態を調査し改善につなげるよう求めて交渉を終了しました。